NIE実践報告

1．タイトル：根拠を明確にして文章を書こう

2．学校名

北九州市立　引野中学校

3．実践者名（代表者名）

河島　直樹

4．学年

中学校　第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　１３３人

6．単元（本時の学習課題）名

根拠を明確にして文章を書こう

7．目標（狙い）

【関心・意欲・態度】
◎　新聞記事や日常生活の中から課題を決め、資料を集めながら、自分の考えを書きまとめようとする。

8．評価の視点

生徒が身近なことから課題を求め、新聞記事を参考にしたり、根拠にしたりしながら自分の意見や考えを明確にし、説得力のある文章を書いているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「わかりやすく説明しよう」（教科書教材：光村図書）
「調べたことを正確に伝えよう」（教科書教材:光村図書）　全　８時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①　新聞の記事や日常生活から意見を書こうとする題材を選ぶ。（2時間）
②　参考作品をもとに、思考や叙述の仕方などを確かめる。（1時間）
③　書こうとする題材について、問題点をとらえ、自分の考えをはっきりさせる。（1時間）
④　ワークシートを利用しながら、根拠として必要な資料を準備し、構成を工夫しながら下書きする。（２時間）
⑤　チェックリストを活用して、題材のとらえ方や資料の用い方、根拠の明確さなどについて相互評価する。（1時間）
⑥　相互評価を参考にしながら、聖書をする。（1時間）

（留意点）
○　指導にあたっては、次の視点を大切にして活動を具体化していく。
・　自分の考えや根拠を明確にするために、新聞から関心のある記事を収集・スクラップしながら、自分の意

11．児童・生徒の反応、感想・意見

○　新聞の東日本大震災の被災地の人たちの記事を読んで、地震や津波だけでなく、その後の避難生活も大変なんだということがわかった。
○　原発問題は、近くの人だけでなく、東京なども放射線の影響を受けることがわかった。

12．成果と課題

新聞を作文の取材・選材の材料、さらには、根拠としてとして使うことは、文章規範を涵養し、客観性のある文章を書く上で、有効であった。生徒は無意識のうちにきちんとした文章を書こうとするようになったのは、大きな成果であるといえる。

ただ、課題が社会的な事象に偏り、身近な生活から自分の考えを見いだしていく生徒が多くなかったのは、中学校1年の国語科の指導としては不十分といわざるを得ない。今後は、生活体験の中から課題を選ばせるために、まず、生活文を書かせておいて、そこから課題を掘り下げ、新聞の調査に入るなど、指導過程の工夫を